## 資料-4

第18回 維持管理・環境管理専門委員会2016年11月9日

# 実施計画の見直しについて

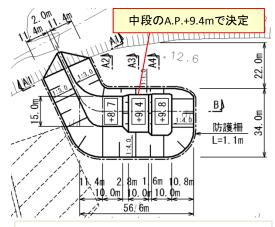
### 実施計画の内容整理と対応方針

前回提示したですが、見直しが必要 との意見でした。

#### 下池河畔林の保全・再生

- ○実施計画で関連する部分の記載箇所を抜粋し、対応可能性を整理した結果 を以下に示します。
  - ⇒ 実施計画では、全体構想書にない目標種の追加変更はできない。
  - → 下池の河畔林整備地の掘削高は外来種の侵入がなく、河畔林の保全・ 再生に適した高さで設定しており、目的外での変更は対外的に説明で きない。
- ○実施計画で対応できる内容の案
  - → 河畔林の保全・再生のための掘削は、土砂堆積や植生遷移による堆積 の進行、水位の変動などを想定し、決定した高さ(A.P.+9.4m)を基 本として、長期的に河畔林の保全・再生が可能となるようにある程度 の幅(深くする方向)を持たせて実施する。
  - → 河畔林の保全・再生を対象とした掘削などの整備により、湿性の河畔 林環境が拡大し、目標種のミドリシジミの生息範囲の拡大に加えて、 他の湿地性の種、高次の消費者、広域に活動する生物が利用可能な場 が創出されることが期待できます。

#### 【参考:試験掘削地の設定状況】



1.5回/年発生する水位はA.P.+9.8m程度 平均水位はA.P.+9.4m程度 最低水位はA.P.+8.9m程度

#### 上池整備地

- 〇モトDへ洪水流入によって生じた水面を長期間維持できるようにすることで、コウノトリを呼びたいとの意見もだされた。
  - → 上池の整備については、自然再生目的の国費を投入済みであり、追加の予算確保は困難である。 予算のかからない方法で、対応する必要がある。
  - → 維持管理・環境管理専門委員会で<mark>アイデアを出しあって実施</mark>する必要がある。 例えば
    - 資金の確保(寄付等)を行い、協議会として、追加の工事を実施する。
    - ・協議会委員の労働力で対応する。
    - イベント等で労働力を集めて、自然再生事業の一つとして実施する。

等

### 実施計画の内容整理と対応方針

### ○前回の委員会で提示された(案)

「特に生物多様性及び自然性の高い湿地環境の拡大とともに、多くの都市住民に荒川太郎右衛門地区自然再生地の魅力を最大限にアピールするために、コウノトリの生息及びサクラソウ群落の成立を自然再生の総合的なシンボルとして設定する。」



#### 【課題】

- ○サクラソウは、全体構想書の目標種として設定されており、総合的なシンボルとしての設定 は問題ありませんが、コウノトリは目標種として設定されていないため、総合的なシンボル とするためには、全体構想書の改定が必要となります。
- 〇荒川上流河川事務所の実施計画書は、過去の予算確保及び投資の根拠となっており、簡単に 目標を変更できるものではありません。したがって、コウノトリを目標とした整備を実施す るためには、新たな実施計画の作成が必要と考えられます。

#### 【対応案】

- ○全体構想書の改定で、コウノトリを記載することは、協議会の合意が得られれば、可能と考えられるため、全体構想書の改定を行います。
  - (全体構想書の改定は変更の実績(荒川太郎右衛門地区自然再生)があり、改定は可能と考えられます。)
- ○シンボルとしてのコウノトリのための整備や維持管理の実施は、追加の実施計画を作成し、 新たな予算の確保や、アイデアを出し合って実施することが必要と考えられます。